

「障害のある人の権利擁護を考える」パート2

11 月にしては暖かい雨の降る、11 月 17 日に、第 161 回支援研が開催されました。

今回は、北九州市障害福祉団体連絡協議会人権部会によるロールプレイとグループワークでのディスカッションです。人権部会としては 1 月に引き続き 2 回目のロールプレイとなりました。

・・・その前に、いつも支援研で障害者の権利条約をお話し頂いている NPO 法人自立生活センターぶるーむ 理事 田中雄平さんに、条約のポイントのおさらいをして頂きました。

♪『障団連劇団(!?)』の精鋭によるロールプレイのはじまり! はじまり!! ♪

聴覚障害の男性が、野球観戦ツアーに申し込もうと、障害のない友人と一緒に旅行代理店にやってくるころからはじまります・・・

男性：(筆談) 一人でツアーに申し込みたいのですが。

従業員：(友人に対し) 一人で参加されて、聞こえないことで、何かあったらどうするんですか？

男性：(筆談) 友人とはではなく、私と筆談で話して下さい。

従業員：筆談はできません！

・・・従業員は男性の意向を聞かずに、障害を理由に、安全を保障できないとツアーの参加を断ります。男性はツアーを諦めて、代理店を後にします。



～ディスカッション～

ロールプレイ後、3つのグループに分かれ、障害当事者、友人、従業員のそれぞれの立場での、気持ちや考えを想像したり、参加者全員でディスカッションしました。

障害当事者の立場としては、諦めや怒り、友人としては困った気持ち。従業員の立場としては、戸惑いや拒絶感を抱いたのではと、その人の立場での意見が出されました。

そして、何が差別で、何が合理的配慮に欠けているかについて話し合い、最後にそれぞれの立場で、どんな工夫をしていたら改善するのか話し合い、全体で共有しました。

当事者

「障害者は理解してもらえないものだ。」

「客として来ているのだから、断るのは許さない!」

「障害者とどんな風に関わりを持ちたいのか分からない。」

従業員

「面倒だ。障害者と関わりを持ちたくない。」

「どうしたら、障害者の声を聞いてくれるのだろうか?」

友人

～再びロールプレイ・問題解決の橋渡し役登場!～

男性と友人は後日、障害のある人を支援しているセンターの職員と一緒に旅行代理店に向かってみることにしました。職員は当事者と旅行者の双方の気持ちをうまく引き出せるように“橋渡し役”として登場!! すると、当事者が自分の気持ちをうまく伝えることが出来て、従業員の不安や戸惑いも解消でき、ツアーに参加できるようになりました。実際もこういった形でうまくいくといいですね。



最後に・・・『今まで障害者の差別に関して議論する土俵もなく、障害当事者は議論する前に諦めてきました。しかし、障害者の権利条約が北九州市にできたら、議論できる土俵ができて、お互いの意見に耳を傾けることができるのでないか』と田中さんにまとめて頂きました。

障害のある人の人権を『自分とは関係のないこと』と思わせる地域の環境をどうするかが課題であり、地域や地域に住む人たちに、地域に住む障害のある人のことを知って頂く啓発活動が大切だと感じると共に、その啓発活動を通じて障害のある人たちの人権に対する理解が深まればいいなあ、とスタッフの一員として思いました。

今回の参加者は 33 名。内、新規参加者は 2 名。少人数の参加でした。この様な取り組みをもっと一般の人たちに知って頂くために、今後は多くの人に参加して頂ければと思います。また、その工夫も重要だとあらためて感じました。グループワークという新しい試みで、とても中身の濃い内容になったと思います。

～♪障団連劇団のご紹介♪～ 聴覚障害の男性：東部障害者福祉会館 館長 竹田英樹さん、支援センター職員：北九州自立生活センター 代表 林 芳江さん、友人：ぶるーむ 井上 保さん、従業員：田中雄平さんでした。またのご出演をお願いします! ありがとうございます。

※こちらの議事録は北九州市障害者自立支援協議会のホームページでもご覧いただけます。

<http://kitakyushu-net.shienrc.com/>

